

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	広報誌を発行し、法人内各施設に置き地域住民に対して、グループホームまゆの優しさをモットーとした理念が取り組まれている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り、週一回のカンファレンス月一回のホーム会議で共有し日々取り組んでいる。	○ 勉強会や話し合いの場を設け家族や地域の方にも理解していただけるようにしたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・ホーム便りを家族に発行している。 ・運営委員会により地域の方にも理解してもらっている。	○ 行事等にも参加を呼びかけ理念を解って頂けるように取り組みたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	棟続きに設置されているデイサービス等の利用者がホームに気軽に立ち寄ってくれることがある、又老健に遊びに出かけることもあり、自由に交流が出来る。	○ 他のグループホームにも行事等を案内しつきあいが出来るように取り組みたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの機能を入居者のケアに配慮しつつボランティアを受け入れ自治会の行事に参加して交流をしている。	○ 地域のイベントや学校や自治会等のイベントに参加させて頂いたり、もっとホームの行事に地域の方をお招きし、交流に取り組みたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	実施していない。	○	地域の高齢者の実態を把握し暮らしに役立つこと を話し合い取り組みたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を参考にして改善に取り組ん でいる。	○	今後も評価を生かし改善に努めたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い利用者のサービスの 実態・状況について話し合い、意見をサービス向 上に活かしている。	○	地域民生委員の方も会議に参加し、共に取り組ん でいる
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	市町村とは連絡を密にとり、法人は要介護認定審 査委員や認定調査員、在宅介護支援センター等 を受託している、市よりの要望は今のところ無いが 市とともにサービスの質の向上に取り組んでい る。	○	市と共に行き来する機会を増やし、サービスの質 の向上の努めたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見人制度については、 必要に応じ学ぶ機会を持っているが、家族に任せ てることが多い。	○	積極的に学ぶ機会を設けていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	定期的に話し合い、勉強会を行い正しく認識して おり開設以来身体拘束は行われない、就寝中の転 落防止の為に家族了解のもとベッド柵を取り付け る場合もある。	○	虐待についてもっと詳しく勉強したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が本人、家族と面談し各種書類や入居申請に至る経過を本人、家族から聞き取りホームの入居の適否を十分に検討している。	○	ご高齢の家族、本人にも見やすいような書類を作りたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れる窓口、職員が明確でありその利用の仕方をその都度、入居者、家族に文書を口頭で伝えている、寄せられた相談や苦情はカンファレンス等で話し合い対応している。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に個人記録の開示をし、具体的に入居者の暮らしぶりや日常の様子を伝えている、体調の変化時急変時にはその都度家族に連絡している。	○	職員異動については、今後お便りで知らせたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情記入の用紙が用意しており、いつでも記入できるとともに苦情等はすみやかに改善し家族からの意見は家族会で表せる機会を設けている。	○	日頃から家族とのコミュニケーションを大切にして、意見など積極的に聞き運営に反映していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月一回の会議を開き意見や提案が言える場となっている。	○	今後もサービス向上に意見や提案は重要に反映させていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族との話し合いがある時は勤務時間内の調整をその都度行っている。	○	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者へのダメージを最小限に考えていただき異動も最小限に抑えられている。</p>		<p>利用者の日常生活へのダメージを防ぎさしつかえないようにしている。</p>
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護福祉士、ケアマネ取得に向けて毎年勉強会を行っている(法人内)外部研修についても積極的に参加を行っている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は同業者との交流の場を持っているが、回数が少ない。</p>	○	<p>他の施設の職員と相互訪問し交流を持ちサービスの質の向上につなげたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員相互の親睦(年二回の親睦会、食事会、忘年会、旅行)を図ったり職員相互で悩みを話したり、聞いたり、上司に相談したり、私生活ではそれぞれウォーキング、スイミング、カラオケ等をして気分転換を図っている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勉強会の実施や月一回の会議を利用し、話し合う場が設けられる。 個々の特技を生かし向上心を図っている。</p>	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面接し本人からの相談をよく聴き安心して利用していただけるよう、信頼関係を築くよう努力している。	○	今後も困っていたり、不安なことを訴える利用者とは、ゆっくり話す機会を持ちたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面接し家族からの相談を聴いている。診断書、入居申請に至る経過を参考にしている。	○	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのときの状況や、すぐに入居が難しい時には、他サービスの利用や、他機関の紹介を行っている。	○	今必要なサービスを提供できるよう努めたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを開始する前に利用者と家族には、ホーム、棟の雰囲気に馴染めるように施設見学をして頂き、納得した上で利用して頂いている。	○	サービス内容の変更については、前もってお知らせをしている。
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居前の生活歴の情報や聞き取りを参考にし、本人の得意な事を事前に知っておくことで、利用者と共に共有し良い関係を築いている。	○	喜怒哀楽を共有出来るよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の理解者の一人として、家族との話し合いの場も大切にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が気軽に訪問でき、訪問時には居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。又、必要に応じてはフォローをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話が自由に行えるようになっている。	○	絵画教室時、絵手紙を作成し家族・友人等へ送っている、面会の呼びかけなど積極的に行っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	3棟共用のホールには、自由に配置換え出来るテーブルと椅子が設置されていて、作業リハビリ、レクリエーション等に馴染みの方同士の会話ができるような席を配慮している。	○	お互いを理解できるよう、さりげなくフォローしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	このような状態で退居する方は少ない、入院時には定期的に連絡を取り、状況把握し今後について話し合っている。	○	このようなケースの場合には、フォローできるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴の情報や、入居してからの話の内容から本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるため、定期的に意見を聞き、日課や作業への参加は、本人本位とし無理のないよう努めている。	利用者の希望が困難な時は、家族の協力を得られるように声をかけている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を大切にし、一人一人把握している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホームの大まかな一月の流れの中で、利用者は自由に自分の時間を使い、自分のペースを保ちながら生活をしている。個々の処遇、カンファレンス、申し送りなどで把握している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き作成しているが、意向があまりない場合が多く、あまり反映されていない。	○ 本人本位のサービス計画書が作成できるよう努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じ見直しをしている、状態変化があった場合のみ見直し、新たな計画を作成している。	状態変化し、随時計画を立て直した時には、家族の了解をいただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の特徴や変化を具体的に記録し、介護計画に沿った日々の介護に反映している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じ、柔軟に対応するようにしている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察・消防・SOSネットワーク、民生委員などと連携をとっている。	○	推進委員会の活用により協力しながら支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	意向に応じ支援しているがあまり行っていない。(必要性がない)	○	意向や必要性がある時には、その都度支援できるようにしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの関わりはほとんどない(必要性があるケースがない)	○	必要に応じ協働していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を第一に考え、納得のいく医療を受けられるよう支援している。同一法人のため、即対応しやすい。		主治医との連携を随時図っている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事前に予約をし、長時間に病院で待つことのないような配慮をしている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師による日常の健康管理や医療活用を支援している。	○	看護師とはこれからも連絡を密にし、健康管理に配慮する。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	常に情報交換や相談を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」があり、かかりつけ医や家族とも常に話し合い、職員全員で共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に向け、チームとしての支援について取り組んでいる。又、今後の変化に備えて、話し合いながら準備を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	住み替え先に事前に状況提供すると共に、話し合 いを行っている。	○	今後も住み替え時には、十分な話し合い情報交換 を行いダメージがないように取り組みたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	常に利用者の誇りやプライバシーを大切に対応し ている、個人情報の取り扱いには十分気をつけて いる。	○	今後もプライバシーを守れるような対応を心掛け たい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	判断を促す際の声掛けを工夫し、出来るだけ自分 で選択し、納得しながら暮らせるよう配慮してい る。		上手な声掛けを常に工夫している。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	利用者のペースを大事にし「待つ、見守る」ケア について話し合い、出来る限り一人一人の希望に 合わせながら対応している。	○	今後も、利用者本位に対応できるようにしたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	利用者の希望により、プライドを大切にし、理 容、美容に出かけられる、又、法人内に来る散髪 屋さんをお願いすることもある。		毎日の服装などは、本人に任せていることが多 い、必要に応じ支援し自立に向けた支援をしてい る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや摂取量を活かしながら利用者と一緒に食事し楽しい時間となるよう努めている。	○	今後も準備や配膳なども、なるべく一緒に行い楽しい食事になるように心掛けたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の状況に合わせて楽しんで頂けるよう支援している。		一人一人の希望を聞き入れ、楽しい毎日が送れるよう努めている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。		オムツの使用や、失敗を減らせるようその都度、話し合っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に個々に決まっているが、その日の体調や気分に合わせてその都度変更している。		その日の体調や気分に合わせて、一人一人の希望に添った入浴が出来るように取り組んでる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎日規則正しく生活できるよう、日中活動への参加を促したりし、よく休むことが出来るよう配慮している。		居心地の良い環境が提供できるよう心掛けている。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾縫いや、台所の手伝いをして頂き、その方にあった役割を提供している。		一人一人の得意分野を活かせるよう支援している。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人に合った金額を所持してもらい、難しい方については、職員が管理し、いつでも使用できるようになっている。	○	利用者の希望に合わせて、お金を使えるように支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて、買い物、外食をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出は、いつでも出来るようになっているので支援している。 お花見や菊祭り、外食、温泉を行っている。	○	今後も希望があれば、外出支援していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があり、自由に電話が出来るようになっている、手紙のやりとりも自由に行えている、投函は支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の訪問時間は湯茶で接待し、諸行事の写真や日常の生活記録などを見て頂き、楽しく過ごせるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解し、身体拘束のないケアを実践している。		二ヶ月に一度、話し合いの場を設けている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な暮らしを支えるため、職員間の声掛け、目配り、見守りをして、鍵をかけない努力をしている。	不穏状態の方には、散歩など個別に対応している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、安全に生活できているか、その都度把握している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その方に合わせた、居室の物品をそろえている、又、危険と思われる物は本人と相談の上対応している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	総合的な知識はもちろん、その状態に合わせた知識についての、勉強会を随時行っている。	○ 今後も積極的に勉強会を行い、専門的な知識を取り入れていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は応急手当を行うことができるが、同一法人の医師の対応を受けている。	○ 今後も定期的に勉強会を行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練、避難訓練を消防署と協力して定期的に行っている。(年二回)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会や、面会時に一人一人の状態について話している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定と日々の状態の変化に気をつけている、変化時には、関係者に情報を共有している。	○	今後も速やかに連絡が取れるようにしたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的、薬の目的、副作用などはすぐに分かるようになっていて、理解している。		指示通り服薬できるよう支援し症状の変化、確認にも努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬や飲食物の工夫を行い、適度な運動に取り組んでいる。		便秘の及ぼす影響を理解して頂けるように話しかけている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の口腔状態に合わせて支援している。	○	毎食後、行っていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日確認し、声掛けしている、又、食事量の調整を行い、バランス良く食べれるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、その都度実行している。		時期により勉強会を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、まな板などの消毒を毎日行っている、定期的に冷蔵庫チェックに努めている。		古い食材は早めに処分するよう努力している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに草花を植え、家庭的な雰囲気に心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂など、季節にあった物を利用者と一緒に作成し、貼ったり、その季節の花を飾ったりし、居心地良く生活できるよう工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに、テーブルや椅子、ソファを設置し自由に使えるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品の持込は自由であり、 居心地の良い空間となるよう工夫している。		その方のレベルに応じた家具を調整している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	定期的に換気を行っている、その日の温度によ り、外気温との差に注意し、温度調節に配慮して いる。	○	自己管理している、利用者への居室の温度の確認 をこまめに行っていきたい。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	浴槽、トイレ、廊下などに手摺りを設置してい る、又、滑り止めマット等も使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人一人日々把握し混乱を未然に防げるよう にしている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ホームの内外・自由に散歩、草花の手入れ、物干 し場があり、活用できる空間がある。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・家庭的な雰囲気大切にしている。
- ・一人一人の生活歴を大切に、その人らしく生活できるよう支援している。